

未来を生き抜く子どもたち②

教科書が読める子どもを育てていますか？

2018.06.06

No.15

校長 渡邊 幸二

その前にまず……お願いやら、もう一度お伝えしたいことなど

<お願い>

① 見学学習などのため児童が校外に出る際に

昇降口前あたりに整列しますね。先生方が来るまでガヤガヤワイワイ……という姿が当たり前になっているようです。おそらくバスの中だってそうなっているはずですが。(そのうち運転手さんに「一番うるさい学校」のレッテルを貼られます)

これは生徒指導の問題です。何のために校外に出るのか事前指導は十分だったのか、どんな姿で待つことがかっこいいのか(そういう自分たちを客観視できるような指導、マクロ的視点を持てるような指導をしているか)、もう一度ふり返らせてください。

ここからはお願いです。整列して出発の際は、校長を呼びあいさつを頼むか、せめて校長室や職員室に「行ってきます」のかけ声をお願いします。浜田っ子の他者意識をもっともっと上げたいのです。

② 先生方の出張・年休の際に

ちゃんとしている先生方もいらっしゃいますが、以下が浜田小や飽海・県内の学校の先生方のスタンダードだと考えてください。

- ◆出張・年休の際は、校長室に行き「〇〇の出張に行かせていただきます。」「これから年休をいただきます。(傷病は別)」と挨拶をしてから出発する。
- ◆出張から帰ったら、または年休をもらった次の日は、これも校長室に顔を出し、あいさつをしていく。

この習慣を身につけておけば、どこの学校に行っても「礼儀知らないねー！」とは言われません。

それから出張の際のお土産は無しにしましょう。参考文献などを買ってきてくださることは大賛成です。学校に買ってきてくださった場合は学校で持ちます。ついでに、お土産のお菓子などをいただいた時、その方へのお礼は忘れずに伝えたいものですね。

③ お客様に

いつも来校者にすばやく、明るいあいさつをしていただきありがとうございます。“オレー人くらいあいさつしなくてもわがんね！”なんて言ってあいさつできないでいる先生は、地域社会に出てもおそらくうまくやっていきません。

<徹底をおねがいします>

年度初め、先生方には「さん付け」をお願いしました。子どもたちに「さん付け」を指導する上では、お手本となる先生が子どもを呼び捨てしているようでは指導の効果が上がりません。しかし未だに呼び捨てする先生がおります。何となくの感覚で恐縮ですが、浜田小は「徹底する」ということに関して各個人の取り組みが甘いように感じます。今後は子どもたちの名前を声に出すときは「さん付け」でお願いします。

廊下歩行も、えしゃくもあいさつも、課題の言葉遣いも、先生方の意識の違いが結果として現れます。よろしくお願いします。

さて今回は、目の前にいる浜田っ子のライバルになるのが、有名大学に楽々入れる実力をを持ったAIロボットになるということを述べました。現在1つの年代には約100万人の子どもたちがいるということですが、その半分の50万人がセンター試験を受験したとして、AIの代表選手である東ロボ君はその上位20%に入ってしまったという話でした。東ロボ君に負けた80%の子どもたちは、いったいどうやって生きていくのか、どんな仕事をして稼いでいくのか……センター試験を受験しない子どもも半分いると仮定しての話です。まさしく脅威の「東ロボ君」のお話でした。

どんな仕事ならAIに負けないか

PTA総会の経営説明時にお話したことですが、オックスフォード大学のマイケル・A・オズボーン准教授は、**今の仕事の半分は消えてなくなる**と予言し話題となりました。右が消えると言われた仕事の一覧です。「学校の先生がなくてホッとした！」なんて思わないでください。おそらく「教える」という仕事も激変します。コンテンツを習得する部分の学習はAIに代替されるでしょう。我々はそれ以外の部分で勝負しなければならないからです。

では、どんな仕事が残るのか……つまりAIが代替不能、または代替しようとするコストが合わない仕事はどんな仕事なのか。

今、新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」と言われていますが、おそらくそういうことです。AIは自ら課題を設定し主体的に学習したり、誰かと対話しながら、つまり柔軟に思考・判断しながら課題を解決したりすることはできません。筆者の新井紀子氏の言葉を使えば**残る仕事の共通点**は「コミュニケーション能力や理解力が求められる仕事」「柔軟な判断力が求められる肉体労働」など「AIに不得意な分野と合致」するそうです。つまり「**高度な読解力と常識、加えて人間らしい柔軟な判断が要求される分野**」なんだそうです。

AIは“ディープ・ラーニング”と言われるように何万ものデータを処理してようやく1つのことを学ぶ(しかし超高速処理!)、決められたフレームの中で計算するようなことは得意だが、応用が利かない、柔軟性がないのが弱点です。何と云ってもAIには人間の常識が分からない、意味が分からないということです。ですからその反対の“一を聞いて十を知る”能力や応用力、柔軟性、フレームに囚われない発想力を備えていれば「AI恐るるに足らず」だと新井氏は言います。

人間もさまざまな常識を含めた知識・技能を習得していなければ考えることも覚束ないでしょう。知識基盤社会と言われるのは、単に「知識・技能」を身につけるだけでなく、それらを使いこなすという意味でした。ですから「思考力・判断力・表現力」や「学ぶ意欲・人間性」が重視されているわけです。AIに奪われる仕事以外の職に就くとしたら必要なのが、学習指導要領で謳われている「**学力**」ということになりそうです、

しかし、新井氏の研究で、今の子どもたち(大人も)には、**読解力を基盤とするコミュニケーション能力や理解力に大きな問題がある**ということが分かってきたのです。次の号からは、実際に研究に使われたRST(リーディングスキルテスト)をご紹介します。我々の授業について考えていければと思っています。

主な「消える職業」「なくなる仕事」

銀行の融資担当者
 スポーツの審判
 不動産ブローカー
 レストランの案内係
 保険の審査担当者
 動物のブリーダー
 電話オペレーター
 給与・福利厚生担当者
 レジ係
 娯楽施設の案内係、チケットもぎり係
 カジノのディーラー
 ネイリスト
 クレジットカード申込者の承認・調査を行う作業員
 集金人
 パラリーガル、弁護士助手
 ホテルの受付係
 電話販売員
 仕立屋(手縫い)
 時計修理工
 税務申告書代行者
 図書館員の補助員
 データ入力作業員
 彫刻師
 苦情の処理・調査担当者
 簿記、会計、監査の事務員
 検査、分類、見本採取、測定を行う作業員
 映写技師
 カメラ、撮影機器の修理工
 金融機関のクレジットアナリスト
 メガネ、コンタクトレンズの技術者
 殺虫剤の混合、散布の技術者
 義歯制作技術者
 測量技術者、地図作製技術者
 造園・用地管理の作業員
 建設機器のオペレーター
 訪問販売員、路上新聞売り、露店商人
 塗装工、壁紙張り職人